

6月1日時点の就職活動調査

企業の採用広報解禁から3カ月。6月1日現在の日経就職ナビ・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は3割を超え、内定を手にした学生は着実に増えていることが分かった。活動開始当初よりも楽観的な見方が広がっている。

1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は35.1%。5月(17.9%)より17.2ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは22.9%

2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- エントリー平均54.7社。5月(50.8社)から4社増にとどまる
- エントリーシート提出、選考試験受験社数は5月から大きく増加

3. 就職活動継続学生の動向

- 内定保持者の活動「内定企業よりも大きい企業中心」が67.2%
- 就職活動を終えたい時期は、8月に集中。「8月前半」28.5%、「8月後半」26.5%

4. 就職決定企業を知ったきっかけと決めた背景

- 知ったきっかけ「インターンシップ」前年の3.8%から12.0%へと増加

5. 就職活動の難易度(4カ月間の推移)

- 「厳しい」は毎月低下。就職活動開始当初よりも楽観的に変化

6. インターンシップに関して後悔していること

- 「もっと多くのインターンシップに参加しておけばよかった」が過半数

7. 理系学生の推薦申し込み状況

- 推薦利用(予定)者は理系全体の26.8%。推薦申し込み時期は5月に集中

8. 「オワハラ行為」経験有無と、その内容

- 「オワハラ行為を受けた」12.9%。「就職活動を終えることが内定の条件」56.1%

9. 就活川柳(序盤編)

- 全773作品から、佳作11首を紹介

《調査概要》

- 調査対象：2016年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答数：1,460人(文系男子469人、文系女子427人、理系男子389人、理系女子175人)
- 調査方法：インターネット調査法
- 調査期間：2015年6月1日~5日
- サンプリング：日経就職ナビ2016就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 6月1日現在の内定状況

採用広報が解禁となって3カ月が経過し、内定を得る学生が増えてきた。6月1日現在の学生モニターの内定率は35.1%と3割を超えた。前回調査(今年5月)の17.9%から1カ月で17ポイント以上増えている。昨年まで選考解禁時期である4月の内定率は2割ほどであったことを考えると、選考解禁前のこの時期に3割超というのはかなり高いと言ってよいだろう。

但し、内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは22.9%にとどまり、内定取得後も就職活動を続ける学生が7割を超えている。現在選考中の企業数は平均5.5社で、これから受験予定は7.3社と、多くの学生にとって本番はこれからだ。

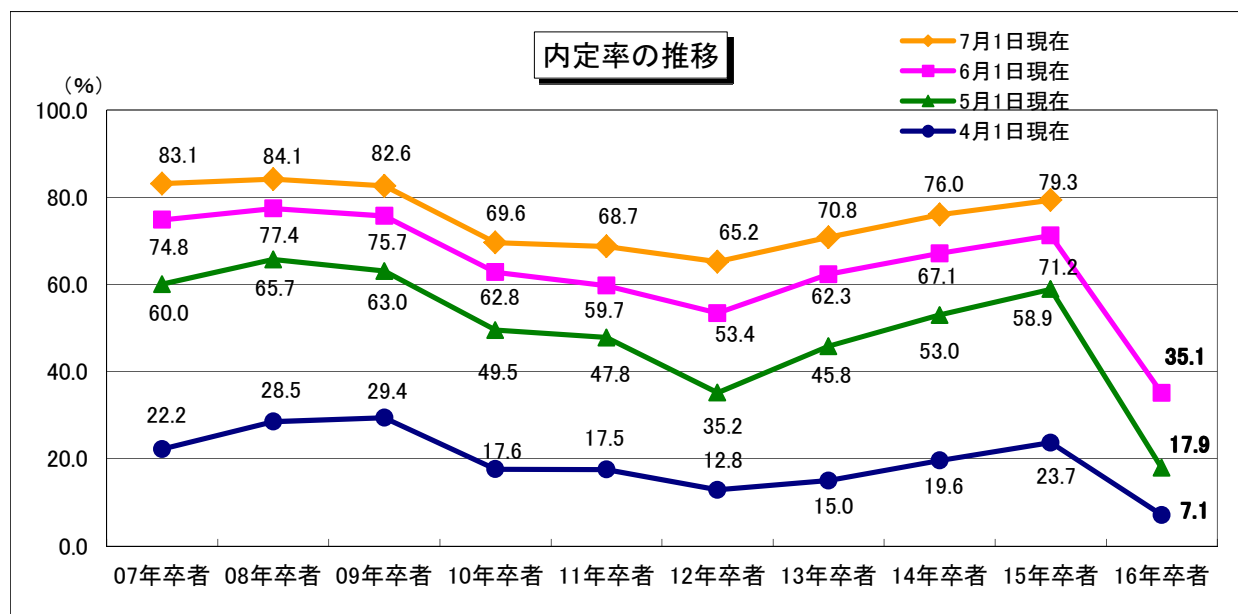
6月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		35.1 (17.9)	35.6 (16.9)	29.5 (16.0)	35.5 (19.9)	46.3 (21.1)
内定なし		64.9 (82.1)	64.4 (83.1)	70.5 (84.0)	64.5 (80.1)	53.7 (78.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	22.9 (14.8)	10.8 (7.8)	23.0 (10.0)	26.8 (20.0)	40.7 (29.7)
	終了したが複数内定保持	3.1 (4.0)	3.0 (3.3)	2.4 (7.1)	5.1 (2.5)	1.2 (2.7)
	進学などの理由で活動を中止	0.2 (0.7)	0.0 (0.0)	0.0 (1.4)	0.7 (1.3)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	73.8 (80.5)	86.2 (88.9)	74.6 (81.4)	67.4 (76.3)	58.0 (67.6)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.5 (1.3)	1.5 (1.4)	1.4 (1.2)	1.6 (1.3)	1.5 (1.2)
現在選考中の企業社数/平均		5.5 (4.2)	6.1 (4.1)	5.3 (4.2)	4.9 (4.2)	5.7 (4.7)
これから受験予定の企業数/平均		7.3 (-)	9.0 (-)	7.8 (-)	5.3 (-)	5.3 (-)

※()内は2015年の同調査での5月1日現在の数値



6月時点での内定業界 (上位5業界)

※5つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト 23.6	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト 26.9	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト 26.2	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト 19.6	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト 19.8
2	建設・住宅・不動産 14.6	コンビニエンス・GMSストア 18.0	コンビニエンス・GMSストア 11.1	建設・住宅・不動産 15.2	建設・住宅・不動産 13.6
3	調査・コンサルティング 11.3	建設・住宅・不動産 17.4	建設・住宅・不動産 11.1	情報・インターネットサービス 14.5	医薬品・医療関連・化粧品 12.3
4	コンビニエンス・GMSストア 9.6	調査・コンサルティング 15.0	専門店 10.3	電子・電機 13.8	情報・インターネットサービス 9.9
5	情報・インターネットサービス 8.4	商社 (専門) 10.8	その他サービス 10.3	調査・コンサルティング 13.0	人材紹介・人材派遣 9.9
					素材・化学 9.9
					調査・コンサルティング 9.9

2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

6月1日現在の活動量を表にまとめた。一人あたりのエントリー社数の平均は54.7社で、先月(今年5月)時点の50.8社からわずかに4社の増加にとどまった。昨年度の解禁3カ月後(前年3月)と比較してみると、73.5社であったので、かなり低い水準だ。就職活動の入り口の部分で志望企業群を絞り込んでいる様子が見える。

一方で、企業セミナーの参加社数やエントリーシート提出、選考試験受験数などは、この1カ月で大きく伸びた。いずれも前年3月実績を上回っており、早いペースで進んでいることが分かる。文理男女での目立った違いはないが、全体的に理系よりも文系の方が活動量が多い。

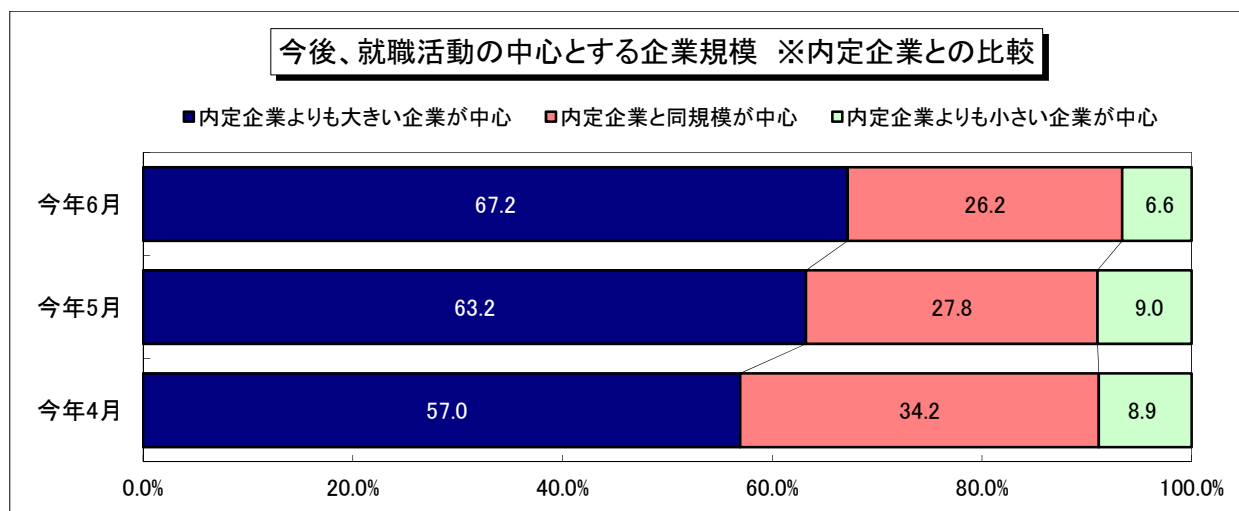
6月1日現在の就職活動の状況

	全 体	今年5月	前年3月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	54.7	50.8	73.5	64.0	57.4	42.2	50.9
セミナー・説明会参加 (社)	46.5	41.9	44.7	52.2	52.0	36.8	38.9
企業単独開催のもの (社)	18.4	14.4	17.7	22.3	19.7	13.1	16.3
合同開催のもの (社)	15.0	14.2	14.7	16.1	18.6	11.3	11.3
学内開催のもの (社)	13.1	13.3	12.3	13.9	13.7	12.4	11.3
オンラインセミナー視聴 (社)	6.5	5.9	6.0	6.8	6.3	6.8	5.9
ライブ中継 (社)	3.4	3.1	3.1	3.5	3.6	3.4	2.9
オンデマンド (録画) (社)	3.1	2.8	2.9	3.3	2.8	3.4	2.9
エントリーシート提出 (社)	12.2	8.1	11.8	12.8	11.8	10.9	13.8
選考試験の受験社数 (社)	16.1	11.2	12.9	17.6	15.5	15.0	16.0
筆記・WEB試験 (社)	8.1	5.3	7.2	8.8	7.7	7.5	8.2
面接試験 (社)	5.1	3.4	3.2	5.5	5.0	4.7	4.8
グループディスカッション (社)	3.0	2.5	2.5	3.3	2.8	2.8	2.9
*今後エントリー予定 (社)	6.0	9.8	—	7.8	5.8	4.5	4.4

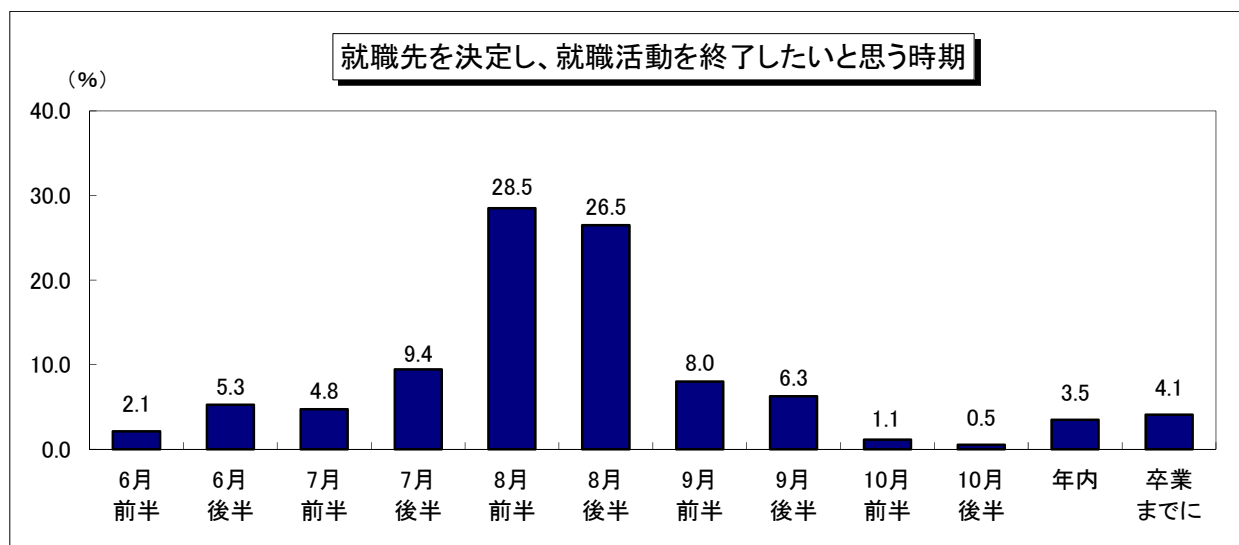
*「今後エントリー予定」は、就職活動継続者のみ回答

3. 就職活動継続学生の動向

内定者の 7 割超 (73.8%) が内定を持ちながら就職活動を続けているが、これから就職活動する上で中心とする企業について尋ね、3 カ月の推移を調べてみた。「内定企業よりも大きい企業が中心」と答えた割合が、4 月調査では 57.0%だったが、5 月調査では 63.2%と 6 割を超え、6 月調査では 67.2%とさらに割合が増えた。大手主要企業の選考が 8 月に控えている中で、学生の意識はますます大手企業に向いていることがうかがえる。

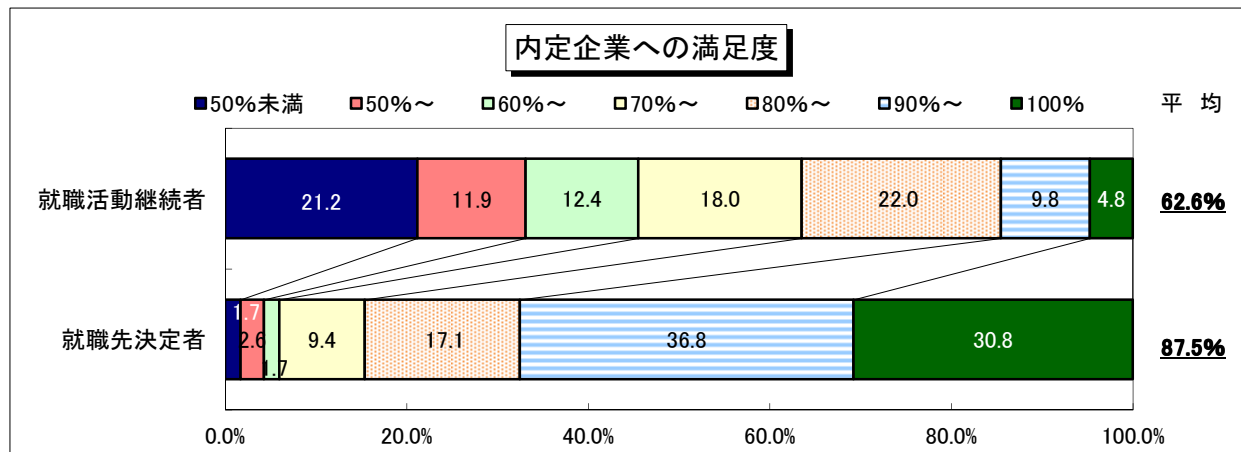


内定有無にかかわらず就職活動を継続している学生に、就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「8 月前半」と答えた割合が 28.5%と最も多く、これに次いで「8 月後半」が 26.5%と続いた。やはり、大手企業の選考開始を見据えていることがわかる。また、8 月より前の時期においては、「7 月後半」とする割合が 9.4%とやや高かった。8 月より前に終了させたいとする割合は、合計で 2 割強 (21.6%)。今後、選考を開始する企業が急激に増えてくることが予想されるが、多くの学生は「8 月」の山場に向けて、目標を定めているように見える。



内定を持ちながら就職活動を継続している学生に、内定を保持している（就職先としてまだ決めていない）企業に対する満足度を尋ねた。同様に、就職先決定者にも就職決定企業への満足度を尋ね、比較してみた。就職先決定者の満足度は平均 87.5%だったのに対し、就職活動継続者の満足度は平均 62.6%と 24.9 ポイントの開きがある。また、就職先決定者では「100%（満足）」と回答したのは 30.8%と 3 割を超えているが、就職活動継続者は 4.8%にとどまっている。

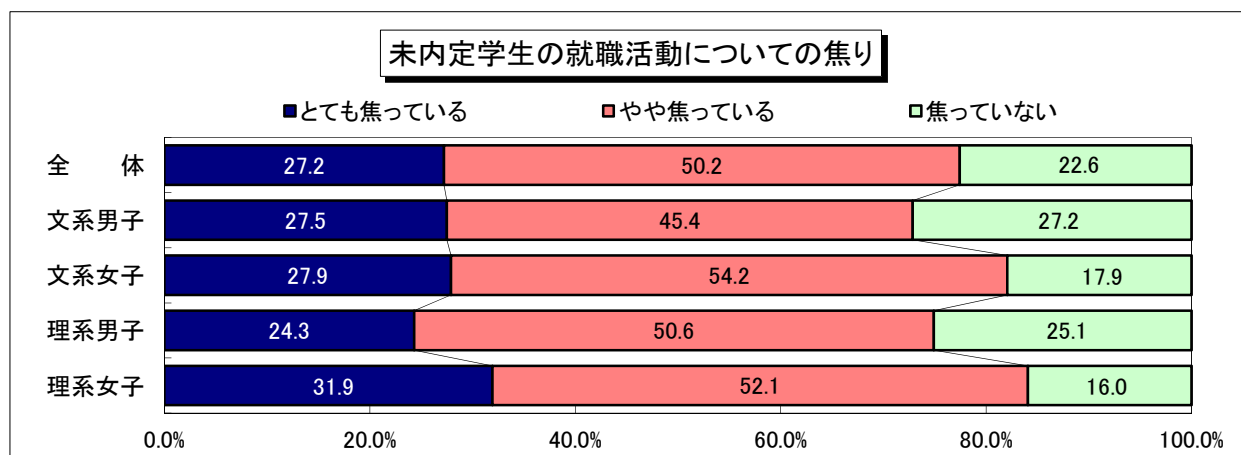
就職活動継続者で「100%」と回答しなかった人に「内定企業のどの部分がクリアされたら 100%になるか」を尋ねたところ、福利厚生や処遇に言及する学生と、理解不足の解消を挙げる学生とに分かれた。



■内定企業のどの部分がクリアされたら満足度が 100%になるか（就職活動継続者）

- 仕事内容と残業時間、それに見合った給料。 <文系男子>
- 労働環境や寮の設備、固定残業の解消。 <文系女子>
- 給与や福利厚生などの細かい説明などを受けていない。 <理系男子>
- 人事以外の社員と具体的な仕事内容や社内の雰囲気について話して、入社するにあたっての不安が解消されたら。 <文系男子>
- よくわからないまま内定してしまったので、もっと企業を知る機会が欲しい。 <文系女子>
- 内定者や先輩にどのような人がいるのかももう少し知りたいため。 <理系女子>

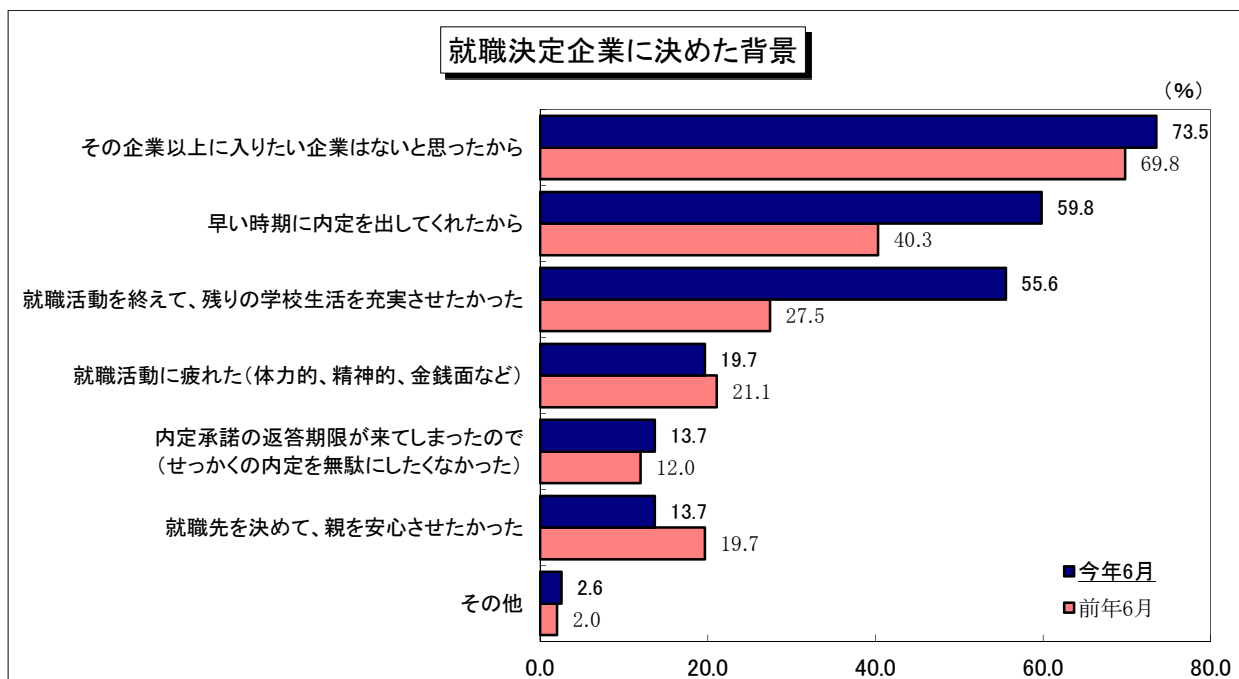
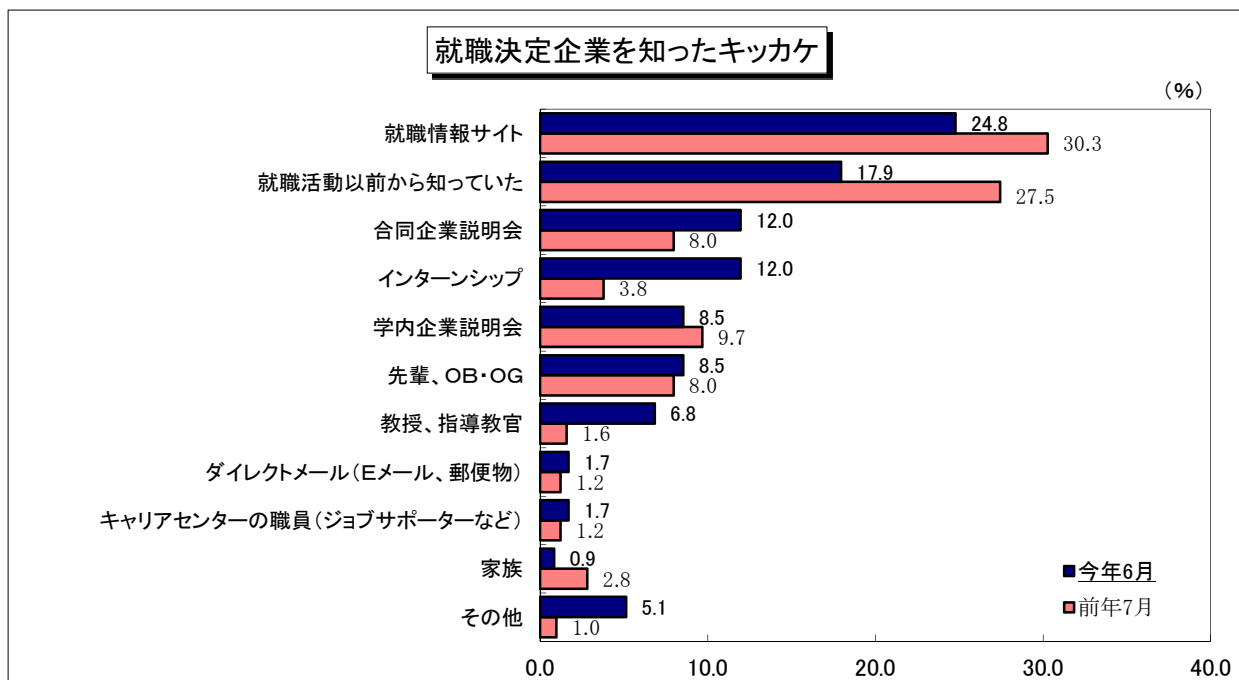
内定を得ていない学生に、焦りを感じているか否かを尋ねた。「焦っていない」は 22.6%にとどまり、8 割近くが「焦っている」と回答。「やや焦っている」を含めると、女子で焦りが大きい。



4. 就職決定企業を知ったきっかけと決めた背景

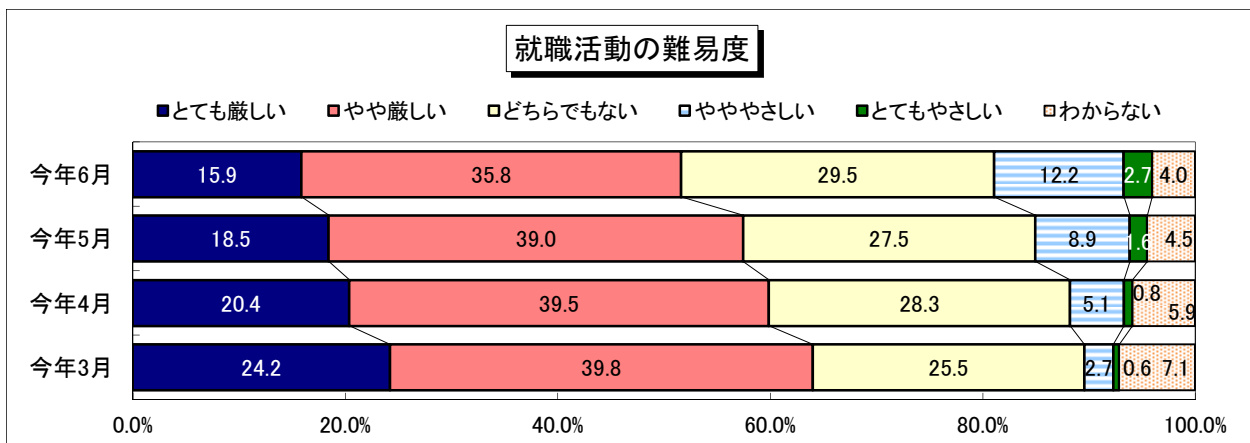
就職先を決めた学生に、就職決定企業を知ったきっかけを尋ねた。その結果、「就職情報サイト」が24.8%で最も多く、学生にとって「就職活動の入り口」として機能していることが分かる。次いで「就職活動以前から知っていた」が17.9%で続いた。前年同期調査から大きく割合が増えたのは「インターンシップ」で、3.8%から12.0%へと約3倍になった。インターンシップ参加企業の本選考を受け、そのまま就職を決める学生が増えたことから、インターンシップの影響力が強まっていることがうかがえる。

また、その企業に決めた背景として前年調査より増えたのが「早い時期に内定を出してくれたから」(40.3%→59.8%)と「就職活動を終えて、残りの学生生活を充実させたかった」(27.5%→55.6%)。スケジュール変更で就職活動期間が長期化していることに抵抗を感じる学生が多いようだ。



5. 就職活動の難易度 (4 カ月間の推移)

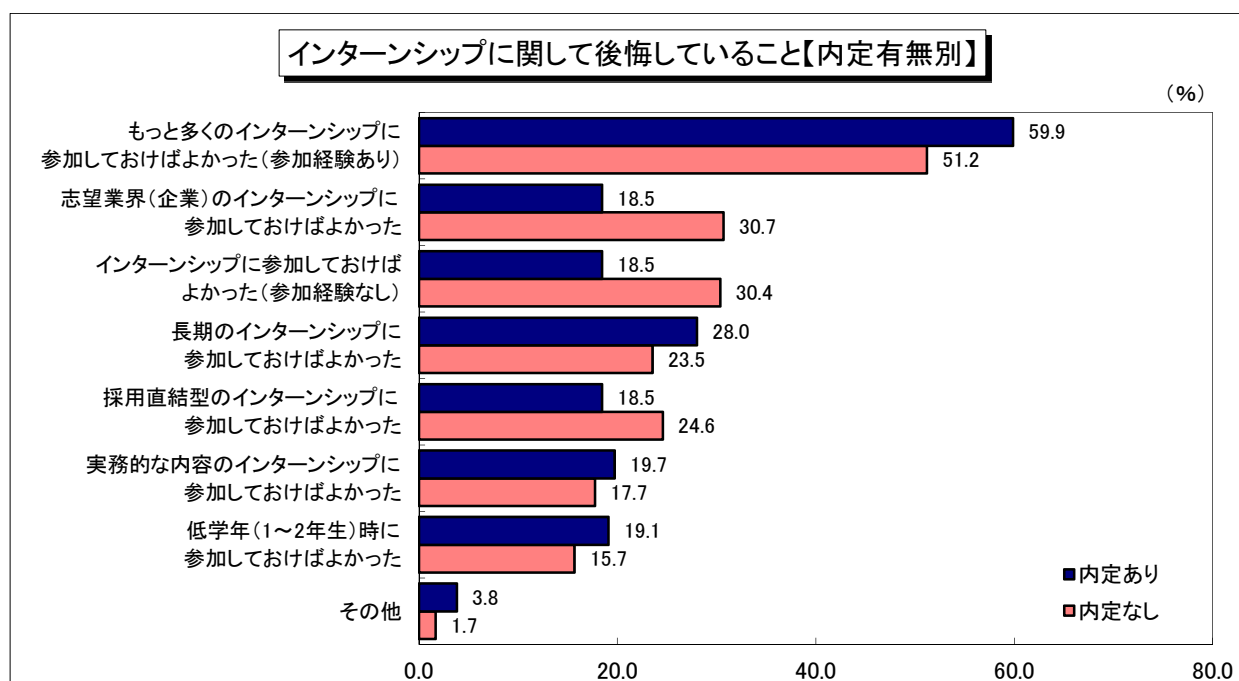
選考解禁を前にすでに 3 人に 1 人が内定を得るなど、ハイペースで進んでいる今年の就職戦線であるが、就職活動を進めていく中で学生の意識はどのように変化しているだろうか。採用広報活動解禁後の 3 月から現在までの、就職活動の難易度の推移を見てみると、「とても厳しい」と答えた割合は、この 4 カ月で 24.2%から 15.9%へと毎月低下している。一方、「やややさしい」と答えた割合は、2.7%から 12.2%へと毎月上昇。これまでのところ、当初の予想よりも楽観傾向が高まっている様子がうかがえる。



6. インターンシップに関して後悔していること

就職決定企業を知ったきっかけに「インターンシップ」を選んだ学生が大きく増えたが、インターンシップに関して後悔していることがある学生(全体の 30.8%)に、その具体的な内容を尋ねた。

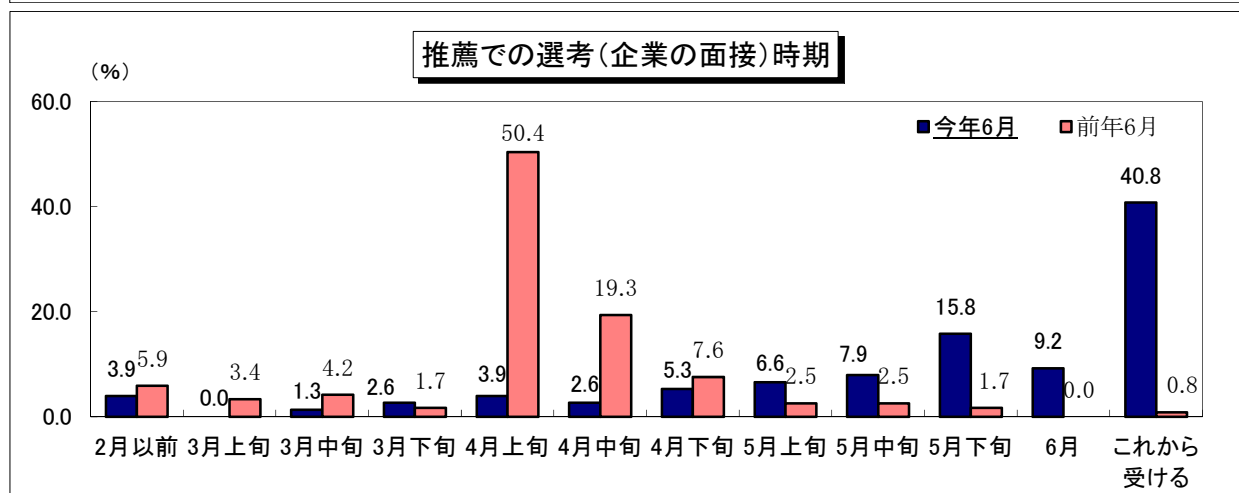
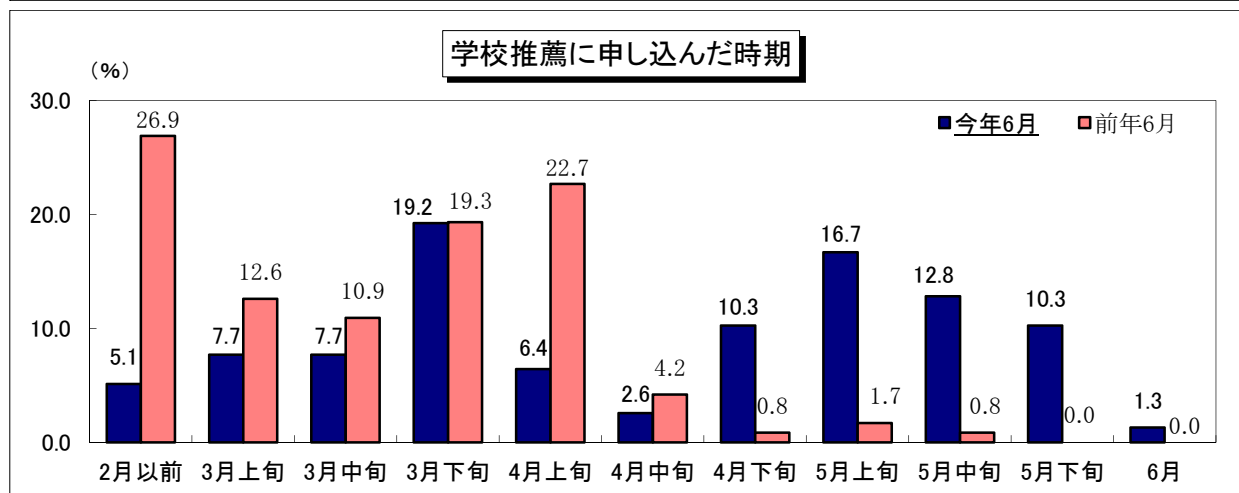
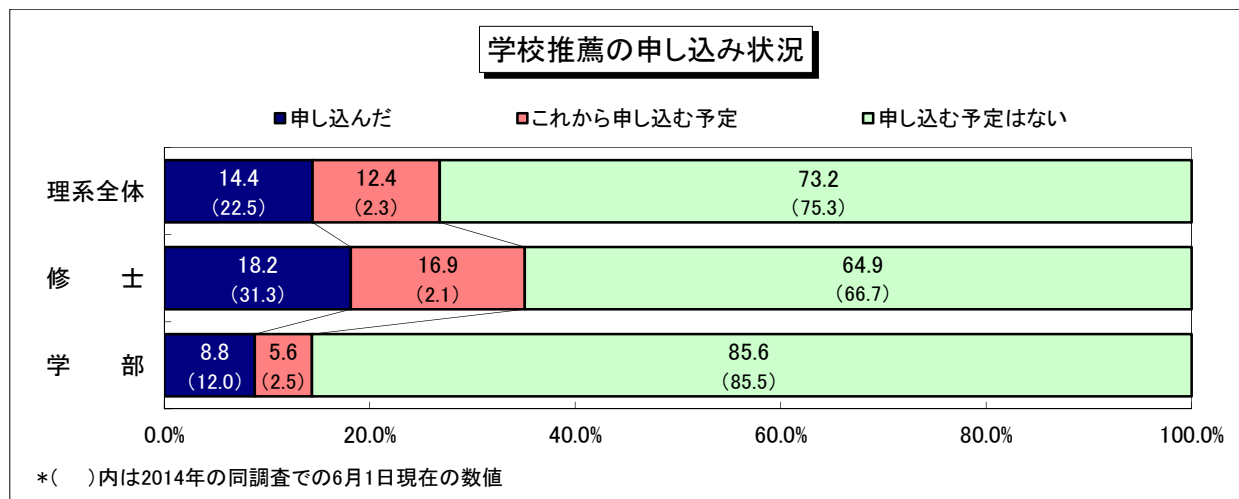
内定ありグループ、なしグループともに最も多かったのは、「もっと多くのインターンシップに参加しておけばよかった」で、それぞれ過半数に及んだ。内定なしグループのほうが全体的に多くの項目を選んでおり、インターンシップに参加しておけば就職活動がもっとスムーズに進んだかもしれない、という気持ちが垣間見られる。



7. 理系学生の推薦申し込み状況

理系学生に学校推薦への申し込み状況を尋ねた。「申し込んだ」との回答は全体の 14.4%で、「これから申し込み予定」が 12.4%。合計すると 26.8%と 4 人に 1 人の割合だ。推薦での採用枠を増やすなど、推薦に力を入れる企業が増える中、推薦利用者は例年と同水準にとどまりそうだ。

学校推薦に申し込んだ時期は、昨年は「2 月以前」が最も多く、それ以後の時期では「3 月下旬」と「4 月上旬」に集中していた。しかし、今年は 5 月の申し込みが増えている。申し込み時期が後ろにずれたことで、企業での面接時期も遅くなり「これから受ける」が 40.8%にのぼる。

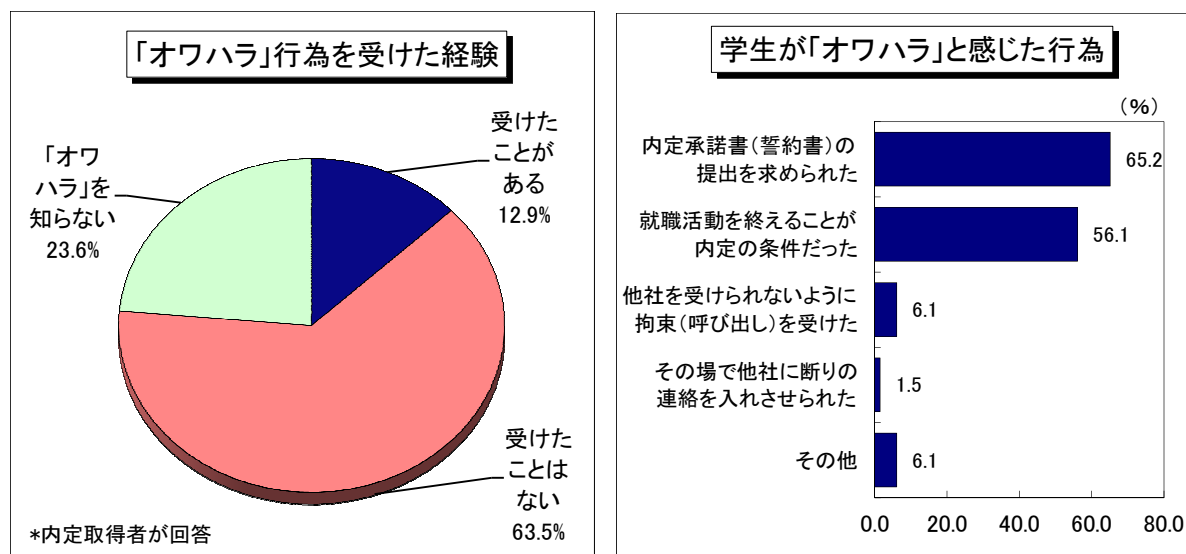


8. 「オワハラ行為」経験有無と、その内容

企業の採用意欲が高く、新卒採用マーケットが一段と過熱する中、内定学生に就職活動を終えるよう強く働きかける行為が問題視されている。過剰な行為は「オワハラ（就活終われハラスメント）」と呼ばれており、文部科学省は実態調査に乗り出す方針だという。内定を得た学生を対象に、オワハラ行為の経験有無を尋ねたところ、12.9%が「オワハラ行為を受けたことがある」と回答した。

内容としては「内定承諾書（誓約書）の提出を求められた」（65.2%）と「就職活動を終えることが内定の条件だった」（56.1%）の数値が高く、広く行われていることが想像できる。

内定承諾をめぐる企業と学生の駆け引きはこれまでも行われていたが、優秀な人材にぜひ入社してほしいという企業の熱意も、行き過ぎると「ハラスメント」と受け止められかねず、逆に入社意欲が下がってしまう例もある。企業としては細心の注意を払いたい。



■ 「オワハラ行為」の具体的な内容や意見

- 期間は 3 週間程度もらえるが、内定を受ける場合には他の企業の選考は全て断ってから連絡くださいと言われた。また、選考を断った企業の名前も聞かれた…。 〈文系男子〉
- 最終面接直前の面談で、8 月まで就活を続けたい旨をおわせたところ、8 月まで待つことはできないと言われた。仕方がないので、選考辞退すると嘘をついた。 〈文系女子〉
- 自分の将来を決める大切な選択の場面で、そういう行為をされるのは気分が良くない。 〈理系男子〉
- 5 月下旬の内定通知で、5 月末までに就職先を確定させるとの指示。2 日に 1 回程度電話でどうするのかと問われる日々だったため、志望業界が諦めきれず内定辞退に追い込まれた。 〈文系女子〉
- 内々定を出したら絶対入社すると約束しないと最終選考には呼べないと言われた。 〈文系男子〉
- 内定承諾書は、法的拘束力がないとわかっていても、不安になります。 〈理系男子〉
- いくら内々定を出してもらっても、就職活動を終了する条件は受け入れられなかった。説明会すらまだの企業も多く、就職活動の時期がこれまでと違うのだからそういった背景も考慮してほしい。 〈理系男子〉
- 教授推薦書の提出を求められ、出せなければ内定はなかったことに、と言われました。第一志望である公務員を受けたかったのですがこれにより受けられなくなってしまったので、とりあえず入社して来年以降に受けようと思います。このように他社への未練を捨てきれないまま入社する人が増えて、その年の内定者は確保できても簡単に辞められてしまうため、企業としてもあまり良くないのではないかと思います。 〈理系女子〉

9. 就活川柳 (序盤編)

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 773 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

スケジュール変更に戸惑う気持ちや、学生優位の売り手市場ならではの余裕など、どれも就活生の率直な心情が表れている。

